

令和6年度 第3回松本市多文化共生推進協議会会議録（要旨）

1 日時

令和7年3月27日（木） 午後2時～4時

2 場所

ジェンダー平等センター ネットワーク室

3 出席委員（11名）

会長	佐藤 友則	委員	マーメット・ショーン・コリン
委員	村井 博子	委員	山本 侑一郎
委員	陳 思静	委員	持山 シャロン
委員	大石 美香	委員	ハインリヒ・トマス・ロニー
委員	岡田 忠興	委員	櫻井 健次
委員	永井 文治		

4 事務局

住民自治局	局 長	逸見 和行
住民自治局人権共生課	課 長	奥原 恵子
同上	課長補佐	山本 修平

6 会議次第

- (1) 開会・あいさつ
- (2) 会議事項
 - ア 令和6年度地域日本語教育推進事業について
 - イ 松本市多文化共生に関する実態調査結果について
 - ウ 第4次松本市多文化共生推進プラン施策体系について
- (3) 閉会

7 会議の要旨

（「令和6年度地域日本語教育推進事業」について資料を用い、地域日本語教育コーディネーターから説明）

会長

ご説明ありがとうございました。委員の皆さんからご質問、ご意見等がありますか。

特にないようですので、次の議題に移らせていただきます。ありがとうございました。

では続きまして、多文化共生に関する実態調査につきましてご説明をよろしく願います。

（「松本市多文化共生に関する実態調査結果」について、SCOPから資料を用いて説明）

会長

非常に丁寧な説明、ありがとうございました。

今の調査についてご意見がありましたら、委員の皆様お願いします。

では、委員よろしく願います。

委員

全体を見て感じたところなのですが、困っていることがないとか、欲しいと思う情報は特にないという回答をされた方が多いということがすごく気になっています。これは例えば、日本人の配偶者で周りにきちんとサポートしてくれている人がいるということで困っていることがないのか、それとも投げやりになっていて、お手上げ状態という感じになっているのかどうか、そこら辺が非常に気になっています。

SCOP

アンケートのクロス分析からそこまでの分析はできないのですが、ヒアリングなどを通してみますと、やはり日本人の配偶者がいたり、周りに同じ国の支援者とか頼れる人がいる方というのは、やっぱり困りごとが少ない印象はあります。やっぱり孤立しがちな方というのが、特に困りごとを抱えやすいということはあると思いますが、ちょっと数字で表すことが難しいです。

会長

日本社会の状況も知っていて、日本人の配偶者や、支援者がいることも含めて、日

本にすでに適応しているから困ったことがないっていう人が多いのは、十分にあり得ることだと思います。

調査回答者のうち、永住者の方も一番多いですので、日本人が考える以上に、実はしっかり定着をし、日本社会に不満がないという外国ルーツの住民の方もかなりいらっしゃるのも確かです。

では、委員お願いします。

委員

私は、個人的にこういう調査にとっても興味があります。特にこのギャップがとても興味深いです。

5枚目のスライドの差別のところで質問です。差別にも色々な差別があると思いますが、このアンケートは、それぞれの差別について聞きましたか。それとも広い範囲の差別で聞きましたか。

SCOP

質問文の中では、差別の具体的な例というのは特に示していないので、様々な差別も含めて、感じられたものが全て入ってくるという形になります。

委員

了解です。ありがとうございます。もう1つ質問です。

9ページ目のスライドの病院の利用で困った経験について質問です。個人的なことですが、松本ではある病院では2人、英語と中国の通訳や翻訳をいつもやっていて、それは私立の病院です。だけど、国立の信州大学病院は、そういう多言語での対応をするスタッフがあまりいないと聞きました。

国の予算もなく、もし松本市医師会で、専門の通訳を派遣できない場合、キーパーソンに医療通訳をお願いできるのでしょうか。

事務局

キーパーソンの制度なのですが、現状では、明確な働き方や、動き方というものがない状態の中で、今リクルートをして仲間を増やしているというところできています。

第4次の計画の中で、次の段階に行くべきステージが来ていると感じていますが、委員がおっしゃったような医療通訳を担うには、当然、責任の問題ですとか、費用面の問題ですとか、まだクリアしていかなければいけないことがいくつかあると思います。当然登録いただいている中には、すごく語学能力が高くて、そういったことが可能な方もいらっしゃるかとは思いますが、現状キーパーソンの繋がる、寄り

添うといったような活動の中身には、まだ定義はなされていないというような状態です。

会長

ご意見ありがとうございます。

個人的な意見としては、キーパーソンが担うべきではないと思っています。医療通訳という命に関わり、そして本当に高い専門性が必要です。正直言って英語ができる外国の人よりも、そうでない人の方が圧倒的に松本在住の人は多く、観光客であれば比較的多くなるとは思いますが、英語や日本語ができるバイリンガルの方が、そのまま医療通訳ができるというわけではありません。

また医療通訳を中国の人で熱心に勉強している人もいますが、勉強にも非常にお金がかかり、そしてなってからの謝金があまりにも安いので、やはりモチベーションが続かない。こんな状況ではとても多文化社会とは言えません。

私は労働・教育・医療の3本が多文化共生の非常に重要な柱だと思っていますが、一番遅れているのがこの医療です。

また、実は大災害でも起きたら、喫緊の話題になるが医療です。本当に今、この松本で震度7の地震が起きた場合、松本城に來ている外国人の方たちをどうするんでしょう。そういった状況に全く対応できていません。医療も、また、帰国させる措置も現状はない。

委員が国の予算はないとおっしゃったんですけど、やはりこれは国としてやらなければいけないことだと思います。

また、病院ごとの通訳・翻訳サービスも本来であれば、同じように対応していかなければならないと思います。

他にご意見、ご質問はいかがでしょうか。

委員お願いします。

委員

さっきの通訳の話について、意見ですけども、松本市は以前から医療関係の部分が課題ですよ。私は、最近医療の通訳をやっているんですよ。それが、長野県に登録してあるんです。

実際現場に行くと、そんなに重いケースばかりではないんですよ。日本語ができる人が隣にいるというだけでもすごく違う。そういう人たちは、先生がいくら話しても病気だから多分精一杯だと思うんですよ。だけど隣にそういう通訳っていう存在がいるだけで、先生との話もすごく早いんです。

でも最近、違和感があります。私は、松本市にいるのに、依頼が長野県からきます。

毎年、毎回アンケートとかを見ると、松本市に住む方の困ったところが、医療関係が多いのかなって思います。いつから動くんですかっていうことが私からの質問です。どういう方法がいいかわからないけれど、毎回困っていることが医療と同じです。

2 ページ目のスライドでも多言語スタッフが必要ってありますよね。予算はないけれど、何かを考えないと、いつまでも変わりません。

みんな年齢も重ねてきているし、病気もあるので、何か対応してほしいです。

あと、これは個人的だと思うんですけど、昔から使っているボランティアの通訳の方たちのことももう少し考えてほしいしケアをしてほしいです。せっかく今まで通訳を行ったのに、モチベーションがあまり上がらないです。以上です。

会長

非常に貴重な生の意見をありがとうございました。

先日、進まなかったものが一つ進んだ大きなものが、長野県の医療通訳の仕組みだと思います。ちょっとこれについて詳しい方、説明できる方いらっしゃいますか。

地域日本語教育コーディネーター

ヤングケアラー等支援のための外国語対応通訳派遣支援事業という事業です。このポイントはヤングケアラーです。

学校を休んでお母さんの病院の通訳に行かなければならない子どもがいるとしたら、その子どもの代わりに県社協が通訳を派遣しますよっていう発想なんですね。

それは医療に限ったことではないんですが、子どもが通訳を担わなければならないような場面が想定される場合、そこに対して支援するという事業です。

報酬としては通訳時間 1 時間につき 2,000 円、1 回上限 1 万円ということです。

使用例として挙げられているのは、転居に伴う行政手続きだとか学校における進路指導の通訳、病院における手術後の説明や定期通院時の病状の説明の通訳などというふうに一応医療通訳でも使えるよという枠組みにはなっています。

これは、要は、長野県国際化協会(ANPI)に登録している通訳者を県社協からの依頼を受けて ANPI が紹介する、というような枠組みです。

これは外国人に特化したものでは元々なく、ヤングケアラー支援という枠組みの中に外国人支援という要素を入れたということです。以上です。

会長

ありがとうございました。

ですから医療通訳っていうわけではなく、ANPI に登録している委員さんの方にも医療の通訳の話が ANPI からくる、そういった形と理解しています。

ただ、本当に長くこの通訳を担当されている皆さんたちが、謝金の低さだけではなく、いわば大事にされている、とても社会に貢献しているっていうような気持ちを持ってない、そしてモチベーションが上がらないっていう状況は極めて危険だと思います。

今やっけていただいている通訳の方の代わりはいないと思います。長く日本に住んで例えば介護ができて日本の社会のことをよく知っている。そのような方の代わりを育てるっていうのは、20年くらいかかる。

そういった人たちのモチベーションもしっかり持たせ、やっぱり松本市としても仕組みを考えていかなければと思います。お金がかからない、名誉でも十分です。正直言いまして、キーパーソンネットワークもキーパーソンになってもお金はもらえないけれど、いろんな施設を無料で使えるよって言うので、非常に評判がいいです。そういった、しっかりとした位置づけがあれば、自分は松本市に受けいれられているんだと思えるようになります。

これだけでかなり成果があると思います。

事務局

先ほどのボランティア通訳の制度について、今年度見直しを行いました。

今まで特に市のルールがなかったんですけれども、3月24日付で要綱を設定しました。その中では従来1時間当たり1,500円という報酬単価でしたが、これを2,000円に引き上げさせていただいたのと、交通用具を使って現地に赴いていただいた場合には500円をお出しするというふうに設けました。

また、市が研修会を行うというようなことも、要綱の中には設けております。

会長

非常に嬉しいニュースをありがとうございます。

2024年度のうちに松本市として要綱を作られて、ぜひそれを今の通訳の皆さんに周知していただいて、少しでもモチベーションを上げることに繋げていただければと思います。

他にはいかがでしょうか？

私の方から、4ページ目のスライドの外国人住民と日本人住民との交流や関わりに対する考え方についての意見です。その中の外国人住民との間で発生した問題や交流の状況の選択肢についてですが、実は日本の住民に対しても同じことが言えると思います。町会への参加率も低いし、ゴミ出しのルールも守られていない方もいます。こういった質問によって、外国の人はこういうトラブルを起こすよねっていうような、ある意味ちょっとバイアスになってしまっているような印象もあります。

すでにこの質問は承認しているので、今更なんですけれど、ある意味外国人へのバ

イアスを余計強化してしまっているという要素もあるかと思います。

集住地域が特に多いというふうな数値も、特に町会活動の参加では多いという数値が出ています。

委員さん、状況はいかがでしょうか。

委員

はい並柳団地町会長を務めております。

先生から言われた通りですね、このことは非常に重く受け止めています。現状は、5～6年前のコロナ頃から、一部教育もやってこられたという話を聞いています。実際、こういったルールがわからない方が多くて、現場で係が待って、例えば、ゴミの出し方で、袋を開けて分別するなど教育をしたという役員の方もおりました。

公民館に集めて教育の場を設けたこともあるんですけど、やはり現場を通じてが一番よろしいかなということでやっています。次第に外国人住民の方も内容をわかってきてもらってですね、不便さをなくして市の方にも迷惑かけないようにやっております。

時期によっては非常に大変なんですけど、当番制を持ってやるのが一番よろしいかなということでやっています。組長さんも現場に行って、動いてくれているのが非常に助かっています。これが今の団地の状況でございますね。少しずつ改善されておりますので引き続き頑張っていきたいと思っています。以上でございます。

会長

ありがとうございます。

大変なマンパワーをかけて、週に2～3回指導してくださるのは、本当にありがたいですね。できれば指導しなくてもある程度は大丈夫な体制に、事前に教えられる仕組みができればいいなと思います。ありがとうございます。

それでは3番目の議題、第4次多文化共生推進プランの施策体系について事務局から説明をお願いします。

（「第4次松本市多文化共生推進プランの施策体系」について資料を用いて事務局より説明）

会長

ありがとうございました。

今お話があったように、甲府、宇都宮といった地方の散在地域でこれから外国の人の力を入れていかなければ、日本人だけでは厳しいという危機感を持っている、そういう意味では松本に近い状況の地域と、日本最高クラスの多文化共生都市である浜松

市と、こういった三つの都市のプランを提示し、これから松本市の第4次プランをどのように考えていくかの参考にさせていただいたものになります。また次に基本理念というものを4つ提案させていただきました。

今お話があったように第3次プランはキャッチフレーズというものがあり、基本理念っていうのが4つ、さらにその下に目標という3段構成だったんですね。

それが宇都宮や浜松を見ても、浜松は目指す将来像と政策分野であり、宇都宮、甲府でいうと基本理念と基本目標であったりと2段構成のシンプルなものになっています。多く表に出して、そして訴えていくものとしては、むしろ理念というのをしっかりと決めた上で、それを第4次の表面に出し、SNSでどんどん発信していくっていうことがいいのではないかとというのが今日の提案になります。

いかがでしょうか？この方向性についても、そしてこの基本理念の内容についても文言についても、この場でご意見をいただければと思います。

委員お願いします

委員

先ほど聞こうかどうか悩んだことでもあるんですけど、松本市の公務員職って、多分日本国籍がなくても、確か受けられたような記憶があります。

以前ニュースで見たことあるんですが、群馬県の自治体で外国由来の方を職員として採用して、実際に活力に変えていけるように期待をしているみたいな記事を読んだことがあるんです。

入管でも外国籍住民の力を生かすっていうふうに書かれているんだけど、これまで出されてきたような議論もやっぱり、そもそも自治体の中にある程度意思決定も含めて、外国由来の方が携わっていくようなことがあってもいいのかなと思います。

実際さっきの通訳問題みたいなのも、当然その方に全ての比重が集中してしまうようなことは避けなければならないんだけど、何か一定の改善は見られるんじゃないかなと感じています。松本市の市職員だとか要職だとかにやっぱりそういう方を採用していこうみたいな流れってやっぱりあったりするのかな、盛り込んでいくような気構えみたいなものがあるのだろうかっていうことをちょっと考えていますので、お聞きしたいです。

事務局

正規職員につきましては、今、外国籍の方の採用は松本市の方では整っておらず、会計年度任用職員に関しては外国籍の方を採用しているというのが現状です。

事務局

今課長におっしゃっていただいた説明なんですけど、外国籍であることを活かした

立場の仕事をしてる方、人権共生課の職員の方で言えば、ポルトガル語相談員の方とかは、確かに会計年度任用職員でいらっしゃるのと、国際交流でも中国籍の方を雇用しています。ただ正規の職員では、日本国籍の職員とほぼ同じ内容の仕事をしている職員はいらっしゃるのですが、実は国籍条項というものがあり、触れられない事務がいくつか定めがありまして、納税の関係ですとか、実はそういった職場には外国籍の職員は配置がなされないであるとか、まだそういった取り決めがあるのが現状です。

委員がおっしゃったようなことは、やはり外国籍の方が自分の違いを生かして強みにして、意見を発信していけるような組織運営みたいなことができればいいのではないかとこのうふうに伺いましたが、課長に説明いただいたように、まだそこまでの仕組みはできていないという状況かと思います。

会長

はいありがとうございました。

それではこちらの基本理念と方向性についてご質問・ご意見がある方、いかがでしょうか。

委員

基本理念が4項目ございまして、2項目目の安心安全に暮らせるまちを維持するっていうのはこれは理解できるんですが、その他の3つについて、方向としては同じことを目指してるんじゃないかっていうふうに思うんですが、やっぱり1番目の変化へのチャンスと考えると、3番目の松本の発展に生かすとか、多文化共生活動を増やすっていうのがそれぞれどういう関係にあるのかちょっとよくわかりません。

事務局

確かに具体的な中身にはなっていないんですけど、ともするとそれぞれ全て同じことを例えば一つの事業が、この三つの基本理念それぞれに関わってくるような事にもなるような、かなり広い範囲の表現なのかなと思っています。

まだ正直具体的に新たな取組みでこういったことをしていくという議論まではスタートができていません。

そういった意味ではその第3次プランの中にある個々の事業をそのまま一つはスライドすることと、あとはこういった調査の結果が必要とされるものですね。

第3回のときにも、こういった取組みはやはり必要なんではないかという意見が平行して出てきたものがあれば、そういったものも入れ込んでいくんですけども、網羅的に拾えるようにですね、あまり限定をしない広い表現、それでも安心安全というキーワードであったり、変化として、今まで同じことを続けていくだけではなくて、変化ということはその学びの機会を増やしていくというようなことに繋がると思いま

すし、発展という言葉になると、例えば経済面を配慮した雇用のことだとかそういった部分が入ってくるでしょう。

あと今松本ですと、各地域づくりセンターでそれぞれ特色のある取組みをしているという動きがございますので、そういった地域ごとの活動についてはこの4番目のところでちょっと理由をつけながら、整理ができるように広く設けている状態です。

今回そういった意味では、委員が今おっしゃったような具体的に何かこの取組みを入れるためにこういうふうにしたとはなっていないんですよ。

委員

私が感じたのは逆ですね、例えば、安全安心に暮らせるまちを維持するっていうのが一つで、もう一つはチャンスとして捉え、発展に生かすっていうこれがもう一つで、おそらく2本の柱で、言い切れるのではないかなと思っているように感じたんです。その中に個別の具体的な政策っていうのを、それぞれ盛り込んでいけばいいのではないかと感じました。シンプルにした方がいいです。

会長

いかがでしょうか？委員お願いします。

委員

先ほど第4次プランにも参考の体系図第3次プランをそのままスライドする予定というお話だったのですが、第3次プランの体系図2番の4、日本語学習支援体制の充実の中で1, 2, 3とそれぞれ3つあるかと思うのですが、日本語教室支援っていうのは、ボランティア団体を支援することでしょうか。

おそらく市では、特別何か直接的な教室の行われていないと思うんですが、ボランティアグループの支援ととってもよろしいですか。

事務局

松本市として委託している事業としては、本日の議事の1番でご説明をいただきました、地域日本語教育というものがあります。こちらが、松本市の事業として、CTNに受託をお願いしているものになります。

ただ、そちらもですね、今年度で一旦区切って、整理充電を経て次の出発を図りたいというような状態です。

委員のおっしゃるように正直今の松本市における日本語教室は、自分でお金を払って学校に所属する、あるいは自分で教材に接して学習する以外、ほとんどボランティアの方に依存している状況です。ただその第3次プランのときから比較して、日本語教育に関する法律ができたこともありますので、単純にそのボランティアの方に頼る

だけでこういった日本語教育の環境が守られるというふうには考えられないと感じています。

会長

ありがとうございます。ちょっと今はこの施策の中まではあまり入らず、大きな枠組みの議論を今日は進めていければと思います。

今現在上がっている4つの基本理念、そして他の都市の状況を見た上で、松本市の大きな枠組みとしてはどのようなものにしていくか。

タイムスケジュールとしては今年度というか、今年のうちにはほとんどプランの策定をした上で、来年パブコメをして議会を通して決まるのかなと。時間としてはかなり短いです。

この協議会の回数としても、それほど多くの回数ではないので、今日ある程度大きな方向性で進めていきます。そういう意味では、4つをいきなり絞ってしまうよりも、ある程度大きな枠で広げておいて、今後2つでよかったというようにしていく方がいいんじゃないかと思っています。

委員さんお願いします。

委員

はい、ありがとうございます。

理念について一番目にその変化のチャンスと考えるってところがまずあって、その次に安心安全に暮らせるまちを維持するってことがあります。これ自体は変化を良しとしていない文言なのかなというふうに個人的には感じるようになりました。

甲府市の言葉とかを見ると、改めて安全で心して暮らせるまちの実現であるとか、ポジティブな言葉で語られている印象はあるんだけど、維持するっていうとどうしてもその治安維持というか、外国籍の方が入ることでは何かやっぱり懸念されるみたいな印象があります。さっきのアンケートの話とかをどこかで意識しながら語られたような印象もあって、さらに安心安全に暮らせるというような、前向きなビジョンに変えられたらなと思いました。以上です。

会長

貴重な意見ありがとうございます。

かなり市民の意見、ネガティブな風潮、そういったもので、それを必ずしも悪くなるのではないよ、っていうようなものからこの維持っていう単語が出てきた点はあるかと思いますので、今の意見を前向きに考えていきたいともいます。

他にも何か意見はありますか。

一番下の各地域の多文化共生活動を増やすというものは、ちょっと毛色が違ってるとかなと思います。松本市には35の地域があり、その35の地域がそれぞれ街中であつたり空港周辺であつたり、集住地区であつたり、それぞれに特徴があります。それぞれの特色を活かしたものを進めていこうという面では、よりこの4つの中では、具体的というか松本市が目指すものがはっきりしているものかなと思います。他のものはより理念的で。

とにかく不安に思っている人に対して、不安ではなく、むしろこれは発展のチャンスだっていうことを打ち出して、訴えていく。そういうふうな意味での理念的なものがある。

それが委員さんがおっしゃるようにまとめてもいいんじゃないかっていうものも、今後意見として十分にあり得ると思います。

今の委員さんの説明をもう1回ちょっと読ませていただきますが、日本籍外国籍を問わず、安心安全に暮らせる街を維持するっていうのが現行です。やはり、これは実態調査の方にもあったものですけど治安の悪化というのがおそらく不安の最大のものだと思います。それに対してどのような形で訴えていくのがいいのか。治安は悪化するという可能性はゼロではないですよ。必ずしも外国籍ということではなく、今現在日本の方による犯罪もかなり増えている現状で、治安自体はどうしても長い目で見ていくと悪化していくんじゃないか。かと言って外国の人が増えたから治安が急に悪化するというふうには私自身は考えてはいない。それを維持するっていう単語は確かに後ろ向きかもしれないので、目指すであつたり、街を作っていく、構築するといったような、前向きな単語がいいかもしれないです。

3番目、様々な背景を持つ外国籍住民の力を松本市の発展に生かすという文言についてですが、やはり、高校生と接していても信大生と接していても、外国の人というと、技能実習生、インドネシア人、ベトナム人といったイメージをすぐにイメージする人が多く、また攻撃的に書かれている人のメッセージを見ても、やはりそういった外国人労働者といったイメージで強く攻撃的なメッセージが発信されています。ただ、信大にいますと、当然信大からも何十人っていう外国人留学生が卒業し、留学生ではなく、移民になりました。全員がとは言いませんが、80%~90%に近い数が技術・人文知識・国際業務という在留資格を所有している。技能実習でも特定技能でもありません。そしてエプソンであつたり、新光電気であつたり、県内の大企業に行くという現状がある。

だから本当に力があり、日本人にはとても歯が立たない語学力と日本語が上級レベルになっていて、専門知識を持っている人がどんどん輩出されている。

ただ、そういったイメージを、あまりにも日本人は持っていないんですよ。松本に住んでいる高校生や同じ信大にいる学生ですらない。そして外国人っていうと、労働者っていうふうなそういう見方があまりにも強い。

一方で、確かに技能実習で来日したとはいえ、日本語をあっという間に習得し、日本人と良い関係を作り、恋人を作り、そして職場で本当に3年で柱になり、大事にされている、そういう人材もベトナムの人でもフィリピンの人でも見えています。

ですから本当にトラブルを起こす、確かに逃げ出して犯罪を起こす方もいますが、そればかりを取り上げられて、本当に力になっている人が表にでない。そういう意味ではロールモデルとして外国由来のそういう人を、どんどん取り上げるっていうようなことを第4次では進めていきたいと思っています。

実際1人のアルゼンチンの学生がアルピコホテルグループに、ほかの大企業を辞退して入社して、松本に残ってくれる。そういった人材も出てきています。そういった人をロールモデルとしてどんどん取り上げて現実を見てもらう。そういったことが非常に大事な状況になってきていると思います。

ちょっと私の方からも話しています。

委員

ちゃんとした統計があるわけじゃないんですけど、私の感覚的には外国人の方が増えたけれども、治安が悪くなっているとか、犯罪発生率が高くなっているっていうところはないと思います。

やはり先ほどもありましたが、安心安全な街を維持するというニュアンスだと、どうしても外国籍の方が増えると治安が悪化しているんじゃないかっていう印象につながってしまうところがあるのかなと思いますので、もう少し後ろ向きじゃないような文言の方がしっくりくるのかなと思います。良いイメージが与えられる表現がいいのかなという気がしています。

会長

ありがとうございます。専門家の方から実感として、外国の人が急増しているが犯罪発生率が急増しているわけではないっていうようなお言葉は非常に心強いです。

私もよく犯罪白書を授業であったり論文であったり取り上げていますけど、平成元年、1988年のときには100万人もいなかった外国の人がもう約370万人、3.7倍ぐらいになっている。それに対して外国の人の検挙件数は、2007年ぐらいでしたっけ、そこでちょっと上がって、そこから逆にもう下がっている。ただ、2023年ごろはちょっとまた上がってしまったっていうのは残念なんですけど、そういった動きがある。何にせよ、検挙件数はかなり低いところで上がったたり下がったりしているので、人数の3.7倍に比べたら、本当に犯罪発生件数は少ないです。

ただこれは、やはり刑法犯のデータであったり、そういったもので、いわば刑法まではいかないトラブルが件数的にどれぐらい増えているのか。また、実は「体感治安」っていう単語を私も最近知ったんです。具体的な検挙件数といった数値は必ずし

も増えていないけれど、たくさんの人が集まって日本語じゃない言葉で話してるから、なんか怖い、何かされるんじゃないか、だからその近くには、寄りたくない。これが体感治安です。

これが残念ながら悪い例で出ている埼玉県川口市ですね。やはりルックスが非常に日本の人と違う方たちが集まって、そして、楽しく話しているにも関わらず、もう怖いと思ってしまう。そして何か1つ悪いことをしてしまうと、「だから外国人は」っていうふうな形になってしまう。そういう体感治安の悪化というのは、おそらく全国で感じている人はいるんじゃないかと思います。それは言わば、意識の問題。そういった意識をどうやって変えていけるか。

松本駅前でも、駅を出て左側の方の丸い大きなスクエアに、これから暖かくなりますとおそらく土曜・日曜に、インドネシアの方たちが結構集まって楽しく過ごしています。ただ楽しく過ごしているんですけど、それを怖いっていう人がかなり私の周囲にいます。

そのリーダーにこの前インタビューしまして、その人が言うには、みんな楽しくご飯を食べ行こうとか、仕事がどうかとか、場合によっては日本の人がやってきて一緒に写真を撮るなりしている。自分たちが怖がられてるなんて知らなかったと言っていました。むしろ彼らは、今度行うイベントの準備をそこでわいわいとやっている。ただ、日本人にとってはそれが怖いんです。体感治安の悪化と言われてしまうのは、日本人の意識の問題になっている。

彼らは時折見回りに来る警察官ともとても仲良くやっている。だから、なぜ自分たちが怖がられるんだ、というのがインドネシア人のリーダーの本音です。そこら辺は日本人の意識の問題で、とても根深いです。非常に長い時間をかけて変えていかなければならない。日本という社会では外国人が今まであまりにも少なかったっていうのがあると思います。この急激な変化に驚いて、むしろマイナスのショックを感じている人が多い。それだけに難しい。

すいません、なかなか時間もかなり短くなってしまいましたので何か皆さんないでしょうか。

委員

4次プランは、キャッチフレーズはつけない方向で、頭から基本理念っていう感じでいくという認識でいいですか。

やはりちょっと文字数が多いので、委員もおっしゃっていましたが、もう少しシンプルに、空で覚える自信はないですが、松本市の第4次プランの基本理念はこういうのだったなというふうに思い出せる、自信を持てるレベルのものだといいのかなというふうに思います。

この今4つ挙げていただいてある文言のそれぞれはすごい理解できるのですが、ま

ずトップに来る基本理念としたときに、多くの方にアピールしやすいのはシンプルなもののかなと思います。

特にそのキャッチフレーズとかそういうものがなくて、これが一番トップに並んだときに、市民の皆さんの心をどのぐらいつかめるのかっていうところが一番気になったかなという感じです。

それとは別に、ピンポイントでの意見としては、各地域の多文化共生活動を増やすと書いてあるのでそれで間違いではないんですが、今既にいろいろな地区ごとに活動をされていますが、その情報が集約されていないかなと思っています。先ほどの委員がおっしゃっていた、ごみの協力という活動然り、各公民館で料理教室とかされていることも然り、そういう一つ一つの活動で既に頑張っておられる地域の皆さんの情報をもっと集約できるシステムを構築して、市全体に発信することで認知してもらえるといいのかなと思います。地区での地道な活動を、市としてきちんと広報してあげることで、やっていただいている皆さんのモチベーションにも繋がると思います。基本理念のところからちょっとずれてしまいましたが、大きな目標を提示することも大事なんですが、今既にある小さい活動もちゃんとフォーカスしていくということも大事かなと思います。以上です。

会長

貴重な意見ありがとうございます。

やはりちょっと長い、多い、それをもう少し簡潔にして覚えやすくしたい。ただ、残念ながら今までの松本市多文化共生推進プランも松本市民からの認知度はとても低いです。それが第4次になったからすごく認知度が上がるか、もちろん上がるための努力はするんですけど、とにかく市民にすごく認知してもらいたい。実はプランが今まで効果を上げたのは市の職員の方への意識・行動の改善。これには第1、2、3次と大きく貢献してくださったと私は思っています。

そういう意味でも市の職員の方々、読んでくださるし、うちの課はなにかしなければというふうに考えてくださります。そういう方々へのアピールというのも、このプラン策定の上で、とても大事で、実質それで動いていく面も大きいと思います。

もちろん松本市民に向けなくていいよっていうわけではもちろんないんですけど、かなり市の職員方の意識を変える、行動を変える、実際の改善に繋がるという意味でこのプランは大きなものだと思います。

SCOP

言葉って正解がないので、計画作りにおいての基本理念とかキャッチフレーズってとても決めるのがなかなか難しいことは私も重々わかっているんですけども、今出されている基本理念に対して委員さんが言われた意見はちょっと納得できました。重

複感がいっぱいあるものとか維持という言葉には見直すのがいいのかなと思っています。

あとは今のプランにある、違いを認め合うっていうあたりが少し消えているというか、表だって出てきてはいないので、違いを認め合うことが多文化共生っていうことでもあるんですが、今日の報告にもありましたように、非常にその日本人と外国人の意識ギャップがあったりですとか、認め合い、その違いを尊重し合うっていうところにまだまだ課題があるとすると、そういったニュアンスのものも一つやっぱり基本理念にあるといいのかなと思いました。

地域日本語教育コーディネーター

私、本業が日本語教師であるので、この日本語という視点から見たときに、まず他の甲府市、宇都宮市、浜松市の将来像っていうのは、どのような街でありたいかっていうあり方を示していると思うんですね。つまり、その理念というかどんな街でありたいっていうあり方の方向目標を示してあって、松本市の場合例えば最後の多文化共生活動を増やす、それは何件増やせば達成なのかという、何かむしろその下のもう少し小さい到達目標なのかなという気がしています。併せて、それぞれの文の最後の述語を考えたときにチャンスと考えるのは誰なのか、維持するのは誰なのか、発展に生かすのは誰なのかと主語がどこにあるのかっていうような、そこがぼやっとしているからこそ誰でも当てはまるという考え方なのか、そこが釈然としない理由なのかなというふうに思っています。以上です。

会長

はい、ありがとうございます。

主語が明確ではない。現状のプランに関しても、あんまり明確ではないものを対応しているので、ブラッシュアップ版である程度わざとぼやけさせている面はある。それは本当に目指す街の姿のために、市は何をしますっていうふうに主語を市にしたものがあるのか、ある程度オブラートに包む方がいいのか、この辺は重要な違いになってきますね。

はい、では時間になりましたので、議長の任を下ろさせていただきます。

ありがとうございました。